



ORGANIC FARMING × TECHNOLOGY

有機農業とロボットで持続可能な農業を実現

事業内容



2,000平米の自社農場

株式会社トクイテン

代表取締役：豊吉隆一郎
設立：2021年8月6日
資本金：10,000万円（資本準備金：36,626万円）
本社：名古屋市西区那古野二丁目14番1号
人員：21名

主要株主：ユナイテッド株式会社、XTech Ventures株式会社、
Central Japan Seed Fund, STATION Ai Fund, STATION Aiフ
アンド、ディーブコア, OKBキャピタルおよび名南
M&A, NOBUNAGAキャピタルビレッジ, 南都キャピタルパートナ
ーズ他

実績

- ・J-Startup CENTRAL
- ・新あいち創造研究開発補助金 3年連続採択
- ・愛知県東郷町 スマート農業アドバイザー就任
- ・Morning Pitch 2024ファイナリスト
- ・JETRO オランダ×Central Japan 農業イノベーション
プロジェクト 2023 採択
- ・R4年度補正・R5年度フードテック実証事業

農作物の取扱店舗
・百貨店・ピオ・セボン
・オーガニックスーパー・セントレアホテルなど

知財（特許）
青果物収穫装置：特許第7468962号、特許第7485321号
自動走行システムおよび自動走行方法：特願2024-085197

創業チーム



豊吉隆一郎・森裕紀

二人は岐阜高専の同級生。高専時代には高専ロボコンにてチームを組み全国準優勝の経験。豊吉は連続起業家、森は豊橋技科大、東大へと進み博士号を取得。現在も早稲田大学にてロボット研究を続ける研究者



J-Startup
CENTRAL

大学の研究に基づく技術



- AI（深層学習）・データ分析（早稲田大学 尾形研究室）
- ロボット開発（特許取得済）

スケール可能な有機栽培技術

今週の生育調査	N	E	F	G	H
	Nサン実生	Nサン接木	Sサン接木	Sエコ	Sデイ
2023/03/30					
栄養生長					
茎高	34	29	37	26	
葉性	11	9	12	8	
開花	3	2	4	2	
生育生長					
茎上段開花数	4	4	2	3	
1段下の開花数	25	7	0	6	
2段下の開花数	3	4	4	3	
1段下の結実数	0	3	4	8	
1段下の落花数	0	0	0	0	
1段下の落花率の割合			✓	✓	
2段下の開花数	10	7	0	0	
2段下の開花数	5	4	0	0	
2段下の結実数	2	6	0	8	
2段下の落花数	0	0	0	0	
2段下の落花率の割合			✓	✓	
1段下（小計）	28	14	8	17	
2段下（小計）	17	17	0	8	
合計	45	31	8	25	



茎直径・花、実の数等を週単位で計測し意思決定

土壌水分・環境データから環境制御や灌水を自動化

- 有機JAS認証取得
- 認定農業者・農地所有適格法人



愛知県実証事業



スマート農業アドバイザー



NHK・東海テレビ・日経等



オーガニック店舗やスーパーを中心に出荷



tokuiten

2026年5月から稼働開始

開発者が動かしながら収穫する運用から、現場の栽培メンバーが使う運用へ移行。
普段使いをしながら性能や安定性を向上させるフェーズへ



非破壊式 糖度選別機

非破壊式の糖度選別機を開発中

従来方式では1千万円程度かかるのが相場であったが、機械学習の手法を使うことで撮影・判別部分を数十万円で実現可能の見込み。

実用化できればどの農家も糖度選別ができるようになり付加価値による所得向上が期待できる





営農実績：2021年～有機ミニトマトを栽培



軒が高く、採光性に優れたスペイン製の施設を建設し、有機ミニトマトを出荷しております。
栽培技術の向上とともに年々収穫量は増加しており、有機で差別化により生産分は完売



旬楽膳





直営農場

+

企業様との
共同運営農場

直営農場増設 2027年 日本最大規模の有機栽培施設を建設

1haの有機施設建設計画を進行中

2022年「みどりの食料システム戦略」にて、CO2ゼロ、化石燃料の使用削30%減と、有機農業25%が目標として定められる



2024年農水省「中小企業イノベーション創出推進事業（SBIR フェーズ3 基金事業）」にトクイテンが約11.7億円で採択



自動化目標：人の作業を半分以下に
脱炭素目標：化石燃料を使わないカーボンニュートラル施設

写真：スペイン Rufepa社 イメージ図

リスクが高く、始めるとやめるのが難しい農業への新規参入を支援しています



米・トマトなどの農業に少額から関わるプランです。農業課題に貢献するだけでなく、農業体験などができます。

トクイテンの農場を一部借りて、1年間予算を区切って農業を栽培から販売まで経験できます。

自社で農地を確保し、トクイテンと農業を開始するプランです。計画から開始までサポートします。

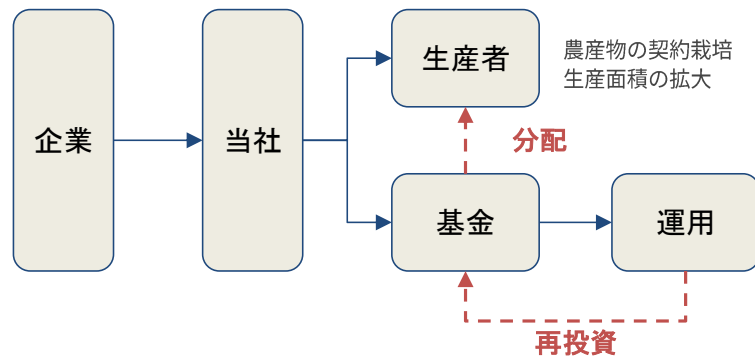
地域ファンドを使った、農業課題解決プロジェクトを手動

概要

農業用水や農道など農業のインフラがなくては農業を続けていけません。本プロジェクトは愛知県の武豊町を1号案件とし、企業版ふるさと納税を原資とした地域ファンドを組成し、継続的な資金の循環モデルを作ります。

なぜこのプロジェクトか、なぜ今か

本プロジェクトは愛知県武豊町から全国へ展開するものです。今回の武豊町でのチームは元VCでスタートアップ創業者の武豊町の町長、スマート農業の有機栽培では国内トップレベルのトクイテン、元ソフトバンクの杉浦氏が率いる農業者集団という高い実行力をもったメンバーで構成しており。オーガニックビレッジ宣言もしており、今回の資金が集まれば、有機面積拡大、耕作放棄減の両面で、国内でも有数の事例となります。



武豊町：名古屋から車で50分 この景色を残したい

農業実証 株式会社日本海ラボ様（2024年8月～）の例

これまで2年で農業実証4社、研究受託2社の農業関与をサポート

2024.08.07 #プレスリリース

株式会社トクイテンとのエアリアオーナー契約締結による、農業分野での実証試験の開始について

日本海ラボグループの株式会社日本海ラボ（本社：富山県、代表取締役社長：新田 洋太郎、以下、日本海ラボ）は、AIとロボットで有機農業の自動化を進める株式会社トクイテン（愛知県名古屋市、代表取締役 豊田博一、以下トクイテン）と、農業分野での実証試験のため、「エアリアオーナー契約」を締結しましたのでお知らせいたします。同日よりトクイテン稲多農場（愛知県稲多町）の一画を利用し、日本海ラボの農業実証人に向けた実証試験を行います。

日本海ラボは、日本海ラボグループのAI農業実証事業の推進を図るため、エアリアオーナー制度で培った技術を活かし、オープンイノベーション推進による新たな事業の創出と社員研修の円滑なプラットフォームの構築を目指します。

トクイテンのエアリアオーナー制度について

トクイテンのエアリアオーナー制度は、トクイテン農業現場の一部を利用し、学習と開発を促進して農業に専念できる制度です。オーナーとなったエアリアでの農作業の調整や収穫物の活用を通じて、農業現場に参入する際の必要となる知識・技術を習得できます。

エアリアオーナー制度の詳細（トクイテン・ホームページより）：
<https://cabot.tokuiten.jp/?a7a7d8e45774f98c233d3009d8d8d8>

エアリアオーナー開始のプレスリリース（8月）



栽培講習・体験（月1～2回）

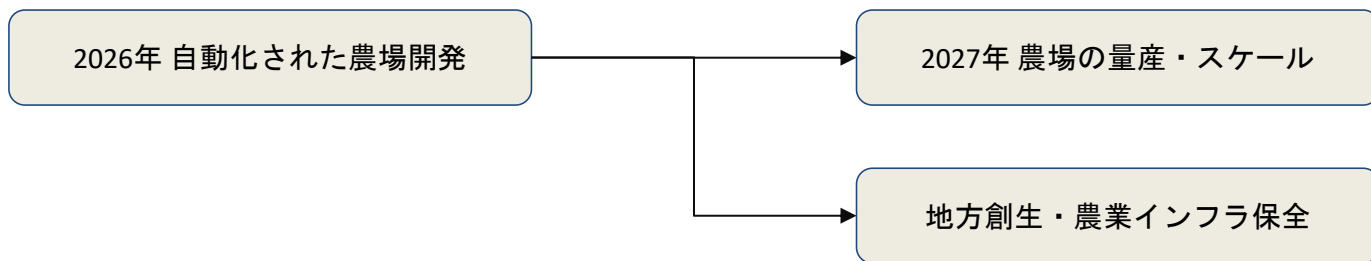


社内に向けて食育講座、親子料理教室を開催（5月）



自社イベントでミニトマトをテスト販売（6月）

自らの実践で得た学びを元に、日本のロボット技術・農業技術で持続可能な農業へのシフトを加速する取り組みを続けます。



投資家様向け

データドリブンな未来の農場を作っています。2027年春のオープンに向けて進めております。ぜひ農場見学等にお越しください。

新規事業担当者様向け

農業を通じて、農業課題解決、地方創生、環境再生型農業、食育活動など興味がある場合はぜひお問い合わせください。有機ミニトマトに限らず、米、大豆など幅広く取り組んでいく予定です



ECサイト
ふるさと納税で予約！

「トクイテンふるさと納税」
で検索

日本のロボット技術・農業技術で 持続可能な農業へのシフトを加速！



付録

防除ロボット

光でコナジラミを集めるロボット
自律走行で農場全体を巡回
LiDARとARマーカーの認識で自律走行
通常困難な不整地の走行方法について
特許取得

